特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　運営

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①-2	認知症介護実践者研修2名、実践リーダー研修1名等の外部研修に参加できた。施設内研修もリモート中心に開催できた。
①-3	超低床ﾍﾞｯﾄﾞ、小型車椅子を追加導入し、補助金を活用して眠りSCANの増台も決定した。
②-2	グラウンドを地域のイベントに提供できた。

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①-1	介護機器の導入等は進めたが、看護職員の配置が不安定であり、介護職員も増員へは至らなかった。
①-4	入所での2度のクラスター発生、市中感染の増加等から全てのサービスで目標未達。訪問介護は休止中。
①-5	財務状況の悪化から、備品類は部品交換等にとどめ来期以降の更新となった。
②-1	コロナの影響もあり大木町社会福祉法人連絡会自体が休止中。

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	介護保険施設として安定した運営を継続出来る体制(人員・設備・財務)を整える(1年目/中期５年)。
②	社会福祉法人として地域に貢献できる活動を行う(1年目/中期５年)。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①-1	看護職を充足させると共に介護職の配置を維持し、余裕のある人員配置を確保する。働きやすい職場環境を整える。
①-2	施設全体のサービスレベルを向上させる為に職員個々の能力を向上させる。
①-3	器具・備品を充実させ、職員の身体負担を軽減する。
①-4	入所実稼働(入院除く)95%、短期入所75%、合計で92%。通所利用者20.0人/日を目標とする。
①-5	設備・備品の更新を継続する。
②-1	大木町社会福祉法人連絡会活動の推進。
②-2	地域との交流を推進し、当法人として出来る活動を行う。

詳細

①-1	引き続き入所通所ともに看護職の確保に注力し、紹介予定派遣等も活用する。介護スタッフは近隣の養成校の実習の受け入れで新卒採用を目指しつつ、新卒以外でも求人を行っていく。既存の職員には子育て世代が働きやすい柔軟な勤務体系の構築や、有給の70%以上取得の促進、介護機器の追加等で広い年代のスタッフ働き易い職場環境を作る。
①-2	認知症実践者研修、リーダー研修に各1名以上参加し認知症に対するスタッフの対応力を向上させる。 ファーストステップ研修等に1名以上参加させ今後を担う中堅育成を育成する。施設での面会再開に備え接遇面の再教育を行う。感染対策に留意しながら管理者が積極的に現場に赴き業務改善を行う。
①-3	職員の身体負担軽減の為に超低床ベッドやモジュールタイプの車椅子の追加導入。3階特殊浴槽の更新検討。
①-4	引き続きスタッフの能力向上により異常の早期発見・治療につなげ入院による空床を減らすと共に早期入所の為に近隣機関との連携を密に行う。
①-5	老朽化している業務用乾燥機、冷蔵庫、冷凍庫、食器洗浄機を優先度が高い順に順次更新。
②-1	副会長施設として協議会で積極的に活動する。福岡ライフレスキュー事業の活動を推進する。
②-2	休止していた施設行事の再開を検討していく。

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　みのり

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	入居者様の状況やバイタルサインの変化など多職種と連携して情報共有し、適切な対応が出来た。
②	入居者様との信頼関係構築に努め、意思表示の時間をつくることが出来た。
③	
④	
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	経験年数に応じた研修への参加が出来ていなかった。
②	クリスマス会は楽しんでもらえたが、それ以外の行事を計画することが出来ていなかった。
③	ユニット会議等の話し合いの場が少なく、統一したケアが出来ていなかった。
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様が安心して穏やかな生活できるように個々を尊重した支援を行う。
②	日々の観察をしっかり行い、日常生活での変化に迅速に対応できるように職員のスキルアップも一緒に行う。
③	入居者様が居心地のよい場所、雰囲気のよい環境をつくり快適に過ごして頂けるようにする。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者様の気持ちに寄り添い、コミュニケーションを通して自己決定の場面を提供する。
②	いろんな角度から観察する力を身につけ多職種とチームケアとして連携し、情報共有と介護技術向上を目指して支援していく。
③	入居者様が不安にならないようにユニットでのケアの統一を行う。
④	入居者様を尊重する気持ちを常に持ち、笑顔で声掛けを行い話を引き出せる様な雰囲気をつくる。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　パラソル

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	少ない機会ではあったが、入居者様の希望に添いユニット行事を計画し実施する事が出来た。
②	日常生活の中で、ラジオ体操等のレクリエーションを実施することが出来た。
③	職員一人一人が、入居者様の介護記録をしっかりと残すことが出来た。
④	申し送りノート・ユニット会議・介護記録等を用いて、職員間の情報共有が出来た。
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	コロナ流行により、入居者様のストレスも多く聞かれた。また、居室での生活時間も多かった為、認知面やＡＤＬの低下も見られた。
②	接遇面で気の緩みがあるようであった。
③	職員間の情報の共有は出来ていたが、各スタッフと話す時間をこまめに設けることが出来なかった。
④	外部研修に参加することが出来なかった。
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様が主体となり、安心して過ごして頂けるよう支援する。
②	事故防止・感染症防止に努め、安全に過ごして頂けるよう支援する。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者様の希望に添った、ユニット行事・計画の実施。
②	入居者様の暮らしの場である事を理解し、寄り添う時間・機会を作り安心して過ごして頂く。
③	申し送りノート・ユニット会議・介護記録等での多職種との連携を図り、事故防止に努める。感染症の予防に努め、適切な感染対策の実施。
④	施設内研修・外部研修に参加し、スキルアップしていく。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　ひなたぼっこ

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	研修の参加により、スキルアップすることが出来た。
②	コロナ禍でも行える行事を計画し楽しみの提供する事が出来た。
③	ルーティン業務の継続的な見直しにより、会話量の増加につなげることが出来た。
④	
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	定期的には職員の発言の場を作る事は出来たが面談までは出来なかった。
②	ユニット全体でのＰＤＣＡサイクルの理解を深める事が出来ず、状態観察力が少し養えなかった。
③	
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	ユニット職員の介護技術の向上継続に努める。
②	入居者が不安なく安心して生活を送れる環境を作る。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	介護技術向上継続のため、研修の参加を行い、スキルアップを目指す。
②	入居者が不安なく生活を送れるよう、多職種やユニットでの連携を取り、統一したケアを行う。
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　憩

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	転倒０とはならなかったが、転倒転落事故は減少した。
②	
③	
④	
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	コロナにより季節行事を行えなかった。（予定していたイベントが出来なかった。）
②	研修への参加がほとんどなかった。
③	
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	多職種や他部署と連携を図り適切なアセスメントを行い、入居者（新規含め）に対し安心安全な支援を行う。
②	コロナ禍でも楽しめるイベントを企画し、実施する。
③	認知症やその他高齢者に対する、医療介護の理解を深めスキルアップを目指す。
④	コロナ発生時でもきちんと対応できるように感染対策への知識を深める。
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者の観察、適切な歩行器や車椅子の使用、ADLの向上を図るための生活動作訓練等。
②	季節を感じるイベントや茶話会など、入居者が笑顔で過ごせるように計画を行う。
③	研修参加をアナウンスし、積極的に研修へ参加しスキルアップを図る。（認知症介護実践者研修等）
④	必要物品の購入や感染対策マニュアルの見直し、委員会と連携し発生時の素早い対応、感染対策の強化。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　花園

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	ユニットより認知症介護実践者研修1名、認知症介護実践リーダー研修1名参加することができた。
②	認知症研修の職場実習をユニットで取り組むことで認知症への理解を深めることができた。
③	
④	
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	24時間シートの作成・更新ができていなかった。
②	定期的に各職員との面談の場を設ける時間が少なかった。
③	行事の計画ができなかった。
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	パーソンセンタードケアを実践する。
②	ユニット職員のスキルアップを目指す。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	ユニットでPDCAサイクルへの理解を深め、活用する。
②	職員のストレスへ目を向ける。ストレスマネジメントを行うことで、職員のストレスを軽減し、BPSDに繋がるような対応を減らす。
③	ユニット全体で多職種協働の意識を持ち、チームでケアにあたる。異常の早期発見に努めのQOLの向上に繋げる。定期的に多職種と意見交換の場を設ける。
④	経験年数や目標に応じた研修の参加。
⑤	資格取得を目指す。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　ゆとりろ

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	移乗の際、リフトの使用を多くし、介助の際の怪我を無くすことが出来た。
②	熱発しやすい入居者様は、バイタル測定をこまめに行い、速やかにNSに相談することが出来た。
③	特別に尿量が多い方以外は、昼間は小さいパットを使用し経費に意識を持つことが出来た。
④	
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	24時間シートの更新が出来なかった。
②	ユニット会議等の話合いの場が少なく、ケアにばらつきが生じた。
③	
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	ユニット内の雰囲気を楽しく和やかに、居心地の良い空間を保てるようにする。
②	職員が情報を共有し同じ方向性で取り組んでいく。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	日中の業務を見直し、入居者様が持て余している時間を減らす。楽しみや安らぐ時間の計画、提供。
②	入居者様のペースで業務を行い、職員主体での対応にならない様にする。
③	ケース記録、24時間シート、掲示版に残す事で職員に情報を共有する。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　通所介護

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	声を掛け合い、業務の改善に取り組み、計画書の作成が計画的に行えた。
②	
③	
④	
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	1日平均20名を目指していたが、コロナウィルス感染対策、入院、他施設への移行等により、平均16名程度の利用となった。
②	
③	
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	1日平均20名の利用者数となるように、新規利用者獲得を行って行く。
②	業務の見直しを行い、各職員が書類を勤務時間内に作成できるようにしていく。
③	利用者様が満足して頂けるレクや接遇等の向上を目指す。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	他居宅事業所への利用状況の報告、パンフレットの作製。
②	職員の勤務時間を有効に活用し、計画書等の作成を行える時間を増やしていく。
③	利用者様の体調や状況把握を行い、必要なケアを実践していく。
④	困難事例等に対する、協議を居宅支援事業所、ご家族と連携して行って行く。
⑤	入院等を未然に防ぐために、異常の早期発見、体調などの気付きを共有していく。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　看護

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	コロナ禍における感染症対策の推進
②	
③	
④	
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	看護スタッフが安定しなかった。
②	喀痰吸引の実習が開催できなかった。
③	
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	喀痰吸引研修を行い夜勤時の安全な吸引ができる体制づくり
②	看護の質向上
③	コロナ禍における感染症対策の推進
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	看護スタッフの充足
②	専門知識の習得・活用　（書籍・Web研修の活用）
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　リハビリ

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	生活機能チェックシートの評価入力とリハビリ計画書に基づき、機能訓練を計画的・継続的に実施できた。情報収集や評価を行なった上で、利用者の状態や症状に合った目標を立て、リハビリの提供が行えた。
②	十分とは言えないが、入居者と良好な信頼関係を築き、心身の評価を通し、日々の状態に合わせながら、リハビリの提供が行えた。症状や状態に適した車いすの選択（車いすクッションを含む）やベッドポジショニ
③	車いすシーティングや福祉用具などの助言や情報の提供が行えた。
④	コロナ禍の中、個別リハビリでは、スタンダードプリコーションを徹底し、可能な限り個室/個別対応で行いリスク管理・感染管理を徹底した。
⑤	

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	外部勉強会・セミナーへの参加
②	生活行為の向上や楽しむリハビリの提供。入居者にとって達成感や満足感のあるリハビリの提供
③	スタッフに対しての起居動作やポジショニング・車いすシーティングなどの提案が不十分であった。
④	コロナ禍の中、生活意欲をUPさせるようなグループ活動の提供はできなかった。
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	個別的生活支援の強化/日常生活行為がやりやすい安心・安全な環境作り/リハビリを行うことで利用者の心身の（運動・認知）機能維持がはかれるように支援していく。
②	姿勢ケア（ベッド上・車椅子座位）の強化・入居者の身体に適した車いすのマッチング
③	介護職員に対して指導・援助（安楽を考慮した起居動作やポジショニング・車いすシーティングなど）
④	福祉用具や自助具の提供/研修・セミナー・外部勉強会への参加
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者に対する評価・機能訓練計画書の策定（見聞録内生活機能チェック・リハ計画書）・実施・見直しなど。
②	ベッド上や車椅子上での安心安楽な姿勢を提供し、介護職とケアの統一に取り組んでいく。
③	入居者・スタッフに対して起居・移乗時「身体の使い方」を誘導・助言・指導。 食事摂取時，姿勢(ポジショニング)に配慮し，誤嚥の予防(嚥下リハビリの実践)，食事摂取率の向上，摂
④	入居者へ適切な評価を行い、福祉用具や自助具の情報提供とスタッフの介護負担の軽減に取り組む。 入居者の日々のリハビリに支障がでない形で研修会や勉強会に参加できればと考える。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　居宅介護支援

令和４年度の成果／目標達成できたもの

①	意向や家族背景に応じたサービス調整や提案を行うことで可能な限りの在宅生活の維持を行うことができた
②	令和4年度の新規契約者数過去最多（令和年1月時点で42名　前年同月比＋13名）
③	包括・主治医・医療機関・サービス事業者・地区民生員・社協などのインフォーマルを含めた連携を図ることができた。
④	権利擁護支援に積極的に取り組み申請を含め制度利用も円滑で後見人との連携もできている
⑤	感染予防を図りながらケアマネ連絡会や事例検討会での包括・他の事業所との交流・情報交換・平時の包括との連携を行うことができた

令和４年度の反省／目標達成できなかったもの

①	事業所指定更新・ケアプラン点検事業の指摘箇所について、アセスメント（間取り図・エコマップ等）を書式追加にて対応した
②	予定していた認知症サポーター講座など地域との取り組みが新型コロナの影響によって未開催や延期された
③	新規の紹介率が包括支援センターが多く、多方面への周知が今後とも必要
④	
⑤	

＜令和５年度方針＞

活動方針／目標

①	介護保険法に基づいて、公正・中立な立場で利用者の自立した日常生活を支援する
②	介護支援専門員としての専門的知識・技術の向上に努める
③	関係機関や多職種連携を図る
④	感染症対策を図りながら、個々の居宅支援を親切・丁寧に実践する。
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	法令順守を行い、介護保険申請～介護サービスや地域社会資源を活用した在宅生活が継続できるように支援する。
②	保健・医療・福祉のサービスについて、利用者・家族に適切な方法・わかりやすい表現を用いて、説明する
③	包括支援センターとの関係を良好に保ち、困難事例や暫定ケアプラン等は積極的に対応する。
④	感染症予防対策を行いながら業務継続する。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム　いちご　SWOT分析　R5

強み	弱み
・有給休暇を割と使いやすい ・医療機関との連携が円滑にできる。 ・柳川県道沿いの立地にて地域住民に認識されている ・勤続年数10年以上の職員が33%　統計調査より高い水準となっておりノウハウがある。 ・特養である入所申し込みが絶えない ・職員間の情報交換がしやすい ・多年齢層の職員がいることで多様な意見交換が活発にできる ・医療機関との連携が円滑にできる。 ・ユニットで感染予防・個別ケアができる	・NSの持続性がない ・男性職員が少ない ・通所、短期入所の利用減少がある ・研修への参加が少ない為、スキルの向上が不足している ・地域住民の施設利用料など高額のイメージがある ・就労人口減少や離職率の割合が多く、業界への入職率の低さによる職員不足 ・職員間の注意がしにくい ・家族の面会の減少により、緊張感が緩くなり、接遇面の低下がある。
機会	**脅威**
・スキル向上への理解があり、研修に参加しやすい環境にある。 ・機器が整備され、リモート研修を受けやすい。 ・周知活動や個別相談の際の丁寧な説明 ・老々介護・在宅介護を希望されることがある。高齢化率が高く介護ﾆｰｽﾞ高い	・職員の精神的負担が非常に大きくなっている為、体調やメンタル的に業務に支障をきたす恐れがある ・介護保険制度改正の影響を受けやすい。大木町の人口減少・高齢化率（30%）からすると競合施設が多い ・コロナ感染による経済活動や利用者の健康状態など　影響を受けやすい ・ケアマネの資格取得者が少ない ・コロナウイルス感染の脅威があり、季節性のイベントなどの企画・実施が難しくなっている。 ・コロナによりリモート面会はあるが、直接の面会の減少により入居者の交流する機会が減っている。